

全国農業



2022年(令和4年)

11月18日

金曜日
月4回金曜日発行

首都圏

これで勝負!

大消費地にいどむ

首都圏農業

127

富士河口湖町農委会

【山梨】富士北麓の観光地として有名な富士河口湖町。同町農業委員会(倉澤吉郎会長)は、遊休農地の発生防止と解消に向け、昨年からカボチャ栽培の普及に取り組んでいる。

同町では夏場の冷涼な気候を活かしたレタスやトウモロコシなどの「富士山野菜」の生産が盛んだが、草だらけの農地が増えている状況の打開策として、成長が早く、除草などの手間がかからない

品種は皮が黒く甘みが強い「ブラックのジョー」を用い、農業委員会の声かけで今年は5戸の農家が栽培。地面が見えなくなるほど成長が早く、除草も他の品種では3回程度だが今年ではゼ口。開花期の病害虫対策も1回と作業が省力化したが、収穫量には影響がなかったという。

倉澤会長は「日頃の水やりも不要なので、農家の負担は少ない。また、貴重な冬場の収入になるので、今後も普及に努めていきたい」と語る。



カボチャの省力栽培を推奨する農業委員

カボチャで遊休化防止